

喜多流「隅田川」 塩津 哲生

能



宝生流仕舞

「難波」
「小歌」
「野宮」
「善知鳥」

※能には字幕がつきます。
但しワキ正面席からは見えません。

札幌能楽会創立60周年記念

観世・宝生・喜多 三流競演

日時 二〇一九年七月二十一日(日)

開場十三時 開演十三時半

場所 札幌市教育文化会館大ホール

観世流「船辨慶」 観世 喜正



チケット三月一日発売予定
S席・八千円 A席・六千円
チケットぴあ (P492084)
ローソンチケット (L121611)
大丸・道新・教文各ブレイガイド
教文ホールメイイト5%引(教文PG)

問合せ先: 札幌能楽会

小林 (864-9826)
佐々木 (665-0124)
大橋 (644-5532)



- ◆主催 札幌能楽会 ◆共催 札幌市教育文化会館(札幌市芸術文化財団) ◆協賛 伊藤組100年記念基金(助成相談申請中)
- ◆後援 北海道 北海道教育委員会 札幌市 札幌市教育委員会 北海道文化財団 北海道文化団体協議会 札幌文化団体協議会
北海道新聞社 朝日新聞北海道支社 毎日新聞北海道支社 読売新聞北海道支社 コープさっぽろ
HBC北海道放送 STV札幌テレビ放送 HTB北海道テレビ放送 UHB北海道文化放送 TVhテレビ北海道

能 喜多流

シテ塩津 哲生
(梅若の母)
ナミダガわ

隅田川

ワキ森 常好
(渡守)
ワキツレ館田 善博
(旅人)

大鼓亀井 広忠
小鼓鶴沢洋太郎 笛 一噌 幸弘

後見 友枝 雄人
佐々木多門

佐藤 寛泰 内田 成信
友枝 真也 狩野 了一
大島 輝久 長島 茂
塩津 圭介 金子敬一郎

狂言 和泉流

かすもつ
蚊相撲 シテ野村 萬斎
(大名)

アド内藤 連
(太郎冠者)
アド中村 修一
(蚊の精)
後見 石田 淡朗

仕舞 宝生流

難波 藤井 雅之

小歌 大坪喜美雄

野宮 當山 孝道

善知鳥 金井 雄資

能 観世流

子方観世 和歌
(源義経)

シテ観世 喜正
(静御前・平知盛)

船辨慶

フキ森 常好
(弁慶)
ワキツレ館田 善博
(従者)

アイ野村 萬斎
(船頭)

大鼓亀井 広忠 太鼓小寺真佐人
小鼓鶴沢洋太郎 笛 一噌 幸弘

後見 永島 充
観世 喜之

坂井 隆夫 浦田 保親
地謡 坂 真太郎 武田 尚浩
浅見 慈一 泉 雅一郎

梗概と解説

能「隅田川」 喜多流

中世の母子の別れ「梅若伝説」に、「伊勢物語」の東下りの段をからませた物語です。

隅田川の渡し守のもとへ、都からの旅人、続いて、一人旅の女が現れます。女は子をさらわれた母で、都の北白河から狂おしく子を探して東下りして来たのです。

舞台で母、旅人、渡し守が並び、渡し舟が悲しい対話を載せて隅田川を渡る様子を見せます。置かれた塚は対岸。そのまわりに集まった人々の念仏の声は、丁度一年前に、商人に連れられてきて、病死した子を弔うもの。

時は旧暦の三月十五日。満月が西方極楽世界へと向かう中、東の空は明るみ、梅若丸の面影を追っている母の顔はシオリ、うつむいたままです。

狂言「蚊相撲」 和泉流

大名が新しい召使を抱えようと、太郎冠者に探しに行かせる。そこへ、都に上り人の血を吸うため、人間の姿になつた江州守山の蚊の精が通りかかり、正体に気づかない太郎冠者は蚊の精を連れ帰る。新しい召使は相撲が得意と聞き、喜んだ大名は早速取らせて見たいと思うが、相手がいないのでやむなく自身で相手をする。蚊に刺されて目を回してしまふ。蚊の正体に気づいた大名は、勝つたためにあるものを持ち出すのだが…。

人間である大名と蚊の精が相撲をとるといふ、何とも奇想天外な作品です。大らかな大名と、蚊の特徴がデフォルメされた蚊の精の動きに注目下さい。

NHK Eテレの子供向け番組「にはんごであそぼ」でも紹介されています。

仕舞 宝生流

「難波」梅を好まれた、仁徳天皇を寿ぐ場面。側近である、百濟から渡来した王仁の霊の舞です。

「小歌」仇討ちのため、流行りの大道芸人・放下僧に変装した兄弟が、コキリコを振って小歌を舞い、油断させます。

「野宮」光源氏が嵯峨野の野宮を訪ねてきた時の回想が、六条御息所の霊の深い思いを醸し出します。「善知鳥」殺生の罪により、地獄に落ちた獵師に、海鳥、ウトウが襲う恐怖の場面は終わりなく。

能「船辨慶」 観世流 (小書) 重牛前後之替

源義経は、平家追討に武功を立てますが、兄頼朝と不和になり追われる身となります。弁慶や従者と共に都を出、西国に向かう途中摂津の大物浦(尼崎)の船宿で、跡を慕ってきた静御前を諭し、都に帰すことにします。静は涙ながらに舞を舞って一行を見送り、中入になります。

船が海上に出ると俄かに風が変わり、激しい波が押し寄せてきます。船頭は必死に船を操るうちに、海上には西国で義経が打ち滅ぼした平家一門の亡霊があらわれます。中にも大将平知盛の怨霊が大雑刀を振って襲い掛かっています。義経は少しも動ぜず応戦しますが、弁慶は刀では敵わずとて、数珠を押し揉んで経を唱え、ついに亡霊どもを祈り伏せ、あとは白波ばかりと消え失せます。盤渉序之舞や流れ足など、小書による特殊演出もお楽しみ頂けます。

主なる出演者

能 「隅田川」 シテ 塩津 哲生



昭和二十年生。父・塩津清人及び喜多流十五世宗章・喜多実に師事。「塩津能の會」主宰。紫綬褒章受章。芸術選奨文部科学大臣賞、観世寿夫賞を受賞。「卒都婆小町」「鶴鶴小町」「檜垣」など勤める。札幌にて札幌哲門会を主宰し、五十人以上会員の指導に当たっている。

狂言 「蚊相撲」 シテ 野村 萬斎



昭和四一年生。故六世野村万蔵及び父野村万作(人間国宝)に師事。三歳で初舞台。国内外で狂言の普及を目指す一方、映画、舞台、TV等幅広いメディアで活躍。古典の技法を駆使した作品の演出等、新しい演劇活動にも意欲的に取り組む。東京藝術大学卒業、東京五輪・パラリンピックの開閉式演出統括を担当している。

能 「船辨慶」 シテ 観世 喜正



昭和四五年生。父観世喜之に師事。父とともに、神楽坂の矢来能楽堂を中心に活動。国内や海外での演能にも多く携わる。二十年以上にわたり札幌での能楽指導に毎月訪れている。慶應義塾大学卒。公益社団法人観世九草会および公益社団法人能楽協会常務理事。